総合周産期母子医療センター

新生児集中治療部・新生児治療回復室（NICU・GCU）

（NICU・未熟児センター）

1. 看護単位の概要

病床数 新生児集中治療部 13床 新生児治療回復室 11床

2. 病棟の特徴

当 NICU・GCU は 2019 年 2 月に産科分娩部とともに京都府より総合周産期母子医療センターの認可を受け同年 4 月から稼動を開始した。また 2020 年 12 月に COVID-19 対応のため NICU を 13 床に増床し、京都府下では最大の病床数となった。多職種連携のもと、地域の新生児医療の中核としての役割を遂行している。

1) 新生児集中治療部（NICU）

低出生体重児（特に極・超低出生体重児）、新生児仮死・胎便吸引症候群などの周産期の異常に伴う病態、先天性十二指腸閉鎖・腹壁破裂などの外科疾患や、総肺静脈還流異常・単心室等の先天性心疾患など、出生直後からの集中管理や手術を必要とする新生児を府外からも受け入れている。入院経路は院内出生と他院からの新生児搬送があるが、当院では基礎疾患や合併症のある妊産婦の母体搬送後に出生する院内出生児の割合が多く、出生前からの産科分娩部との連携は重要である。

NICU 看護は「生理学的適応を支える集中ケア」「神経行動学的発達を助けるケア」「両親・家族中心のケア」で構成されている。医療的ケアを必要とする新生児が胎外生活に適応し身体的にも心理・社会的にも健やかに成長していくためには、24 時間継続するきめ細やかなケアが必要であり、また出生後早期から将来の成長発達のことも視野に入れておく必要がある。医師をはじめとした他職種と連携し、また新生児集中ケア認定看護師を活用して最新の知識・技術の獲得に努め、看護の質の向上を目指している。

2) 新生児治療回復室（GCU）

GCU は NICU での急性期の治療を終えた児に対して、回復期の治療と退院準備のための支援を行う病棟である。NICU から継続する疾患の治療・ケアとともに子どもの成長発達段階に合わせた養育を行い、両親の親役割遂行とできるだけ早期の家庭生活への移行のために、育児指導や精神的支援を行っている。近年重症児や慢性疾患児の増加に伴って NICU と合わせた入院期間が長期化する傾向にある。そのため入院生活の質の向上や発達支援、家族関係の構築・発展へ向けた援助がより重要となっており、理学療法士・言語聴覚士・臨床心理士などとの多職種協働にて親子のケアにあたっている。また退院支援としては必要に応じて地域ネットワーク医療部の MSW とともに、地域の医療機関や保健福祉施設との連携を図っている。